

令和2年度宮城県献血推進協議会議事録

令和3年2月9日午後1時から、宮城県行政庁舎第二会議室において、令和2年度宮城県献血推進協議会を開催した。

- | | |
|---------------------|---|
| 1. 開会 | 薬務課加藤副参事が協議会の開会を告げた。 |
| 2. あいさつ | 薬務課横田課長があいさつを行い、薬務課加藤副参事が、本協議会の出席委員数が協議会条例第4条に規定されている定足数の半数を満たし、有効に成立していることを報告した。 |
| 委員紹介、事務局紹介 | 薬務課加藤副参事が、本日出席している委員と事務局の紹介を行った。 |
| 会長のあいさつ | 張替会長があいさつを行った。 |
| 3. 議事 | |
| 議事録署名委員の選出 | 張替会長が、議事録署名委員として、峯岸委員、渡辺能久委員を選出した。 |
| | 【以下、議事の審議状況】 |
| (1) 令和元年度献血推進実績について | 議事(1) 令和元年度献血推進実績について、薬務課及び血液センターによる説明が行われた。 |
| <u>事務局(薬務課)</u> | 【資料 冊子『宮城県の献血』】 を用いて以下について報告した。 <ul style="list-style-type: none">・令和元年度献血状況について・令和元年度献血推進事業の概要について |
| <u>事務局(血液センター)</u> | 【資料 冊子『宮城県の献血』】 を用いて以下について報告した。 <ul style="list-style-type: none">・令和元年度献血状況について・令和元年度献血推進事業の概要について |
| 質疑応答 | <u>令和元年度献血推進実績の質疑応答</u>
委員全員「異議なし」 |
| <u>張替会長</u> | 質問等がないため令和元年度の献血推進実績について、ご承認頂いたこととします。 |

<p>(2) 令和2年度献血推進計画及び献血推進状況について 事務局（薬務課）</p>	<p>議事（2）令和2年度献血推進計画及び献血推進状況について，薬務課及び血液センターによる説明が行われた。 【資料2-1「令和2年度宮城県献血推進計画」及び資料2-2「令和2年度献血推進状況＜事業実績＞」】を用いて説明</p>
<p>事務局（血液センター）</p>	<p>【資料2-1「令和2年度宮城県献血推進計画」，資料2-2「令和2年度献血推進状況＜事業実績＞」，資料2-3「令和2年度の献血実績について」】を用いて説明</p>
<p>質疑応答</p>	<p><u>令和2年度献血推進計画及び献血推進状況の質疑応答</u> 委員全員「異議なし」</p>
<p>張替会長</p>	<p>質問等がないため，令和元年度献血推進計画及び献血推進状況にご承認頂いたこととします。</p>
<p>(3) 令和3年度献血推進計画（案）について</p>	<p>議事（3）令和3年度献血推進計画（案）について，薬務課及び血液センターによる説明が行われた。</p>
<p>事務局（薬務課）及び 事務局（血液センター）</p>	<p>【資料3-1「令和3年度宮城県献血推進計画（案）」資料3-2「令和3年度献血推進計画（案）新旧対照表」】を用いて説明</p>
<p>質疑応答</p>	<p><u>令和3年度献血推進計画（案）の質疑応答</u></p>
<p>張替会長</p>	<p>○ <u>献血の目標数値の設定について</u> 献血目標について，人数が減っているが総量が増えているのはどうしてですか。</p>
<p>事務局（血液センター）</p>	<p>成分献血について，1人当たりの採血量を増やしたため，（総量が）増えました。</p>
<p>張替会長</p>	<p>なぜ，採血量を変えたのですか。</p>
<p>事務局（血液センター）</p>	<p>献血協力者が少なくても必要献血量を満たすようにするためです。</p>
<p>張替会長</p>	<p>はい，わかりました。その他，質問はございませんか。</p>
<p>渡辺達美委員</p>	<p>○ <u>令和3年度献血推進計画（案）の文言の訂正について</u> 日本赤十字社宮城県支部の渡辺です。 資料3-2の5ページ（2）の「若年者の献血」に関する部分について，</p>

新旧対照表で見ると、令和2年にあった「積極的な」という言葉が令和3年度には入っていませんが、言葉じりを捉えて恐縮ですが、実施する事業内容については令和2年と令和3年では同じという理解でよろしいでしょうか。

事務局（薬務課）

はい、そのとおりでございます。

張替会長

その他、質問はございませんか。

与野委員

○ 新型コロナウイルス感染症が流行した場合における血液製剤不足について
河北新報社の与野です。

現在、新型コロナウイルスの治療において血液を非常に必要としているという話はないように受けとめているのですが、今後（新型コロナウイルスが）流行した際に、治療で大量に血液が必要になってくるというようなことは、特段心配しておかなくてもいいのかどうか伺っておきたいと思います。

後遺症で、血管障害とかですね、そうしたものが増えるのではないかという話がちょこちょこ最近見聞きするように思いますので、例年どおりの目標でよろしいのかどうか伺えればと思いました。

張替会長

医学的にはですね、コロナ感染症の治療のために輸血量が多く必要になるということは多分ないと思います。

現在、患者さんの医療機関への受診抑制とかで多分手術件数が減っていると思うので、逆に、その目標に対して需要が下回るようなことはないのでしょうか。

事務局（血液センター）

血液センター学術情報供給課の佐々木と申します。張替先生の質問についてですが、供給の方は現在どちらかというと増えているような状況でして、やはり受診をされるのがちょっと遅れる方が多いのではないかと。したがって、供給量が少し増えすぎ、数パーセント、本当に少しですけれども、若干増えているというのが赤血球製剤なんかでは見られております。

張替会長

「（血液の）供給量が増えている」とはどういう意味か教えてください。

事務局（血液センター）

血液の供給量が増えるというのは、輸血で使われる量が増えているということになります。前年度に比べて、1月までの累計となりますが、前年度を超える赤血球の血液使用量が増えていると我々は見えております。

張替会長

そうすると、医療機関側の必要量は今増えているのですよね。一時的に需要が減ったけれども、今それが戻ってきていて逆に増えている、と。

事務局（血液センター）

はい。そうですね。おっしゃるとおりで、4月においては今までよりも大幅な減少がありまして、単月でみて前年度より15%程度供給量が減っています。例年、単月でそういう大きな現象というのは見られないのですが、今年度の4月においては、緊急事態宣言の影響かと思われますけれども、非常に供給量が減りました。ただし、今年度の8月ぐらいからは、前年度の実績を上回るような勢いで供給量が上昇しておりまして、先月までずっと供給量の上昇が続いておりました。今月に入りまして引き続き供給量としては、予定よりもちょっと多い状態が続いているということになっております。

張替会長

はい。ありがとうございました。そういったものをいろいろ勘案して令和3年度の計画を立てられたということでよろしいでしょうか。

ほかに質問がない場合は、令和3年度献血推進計画（案）についてご承認頂いたことします。

(4)その他

張替会長

その他、協議会全体をとおして何かございませんでしょうか。

峯岸委員

○ 情報提供と補足説明

血液センターの峯岸でございます。血液事業ということで今年度大きな動きが二つございましたのでご報告させていただきます。

一つは肝炎ウイルスについてです。輸血後感染症の原因には、従来からB型肝炎ウイルスやC型肝炎ウイルスがあり、これに対して平成26年8月から献血者お一人お一人の検体に対して核酸増幅検査が導入されました。これにより、B型肝炎ウイルス及びC型肝炎ウイルスの輸血後感染症が非常に減少しました。一方、E型肝炎ウイルスというものがございまして、このE型肝炎ウイルス輸血後感染症の患者さんが特定例として年間数例報告されるようになって参りました。これにより、昨年8月5日の採血分から、このE型肝炎ウイルスに対する核酸増幅検査が導入されました。

それからもう一点は、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律、いわゆる血液法でございますけれども、これが昨年9月1日に改正になりました。この改正に伴いまして、献血者からの採血判断基準というのが変更になりました。従来は最高血圧が90mmHg以上ということだけでございましたが、この改正により最高血圧が180mmHg未満、最低血圧が110未満mmHgという様に基準が整理されました。それから脈拍数が1分間に100以下ということで、それを超える場合にはその日は献血はお休みということになるわけです。

それから先ほどの張替先生のご質問に対する答えの追加です。今般、成分献血でお一人の方から、循環血液量の多い方、特に男性になりますけれども、お一人から20単位分の血小板を採血させていただくようになりました。で

すので、献血者数が減るといいますか、お一人から二人分といえますか、血小板の採血をさせていただくということになります。また、従来からそうだったのですが血小板採血の際に合わせて血漿も採血をさせていただいておりす。20単位分の採血をさせていただいた際にも、循環血液量によりますけれども、血漿も合わせて採血させていただくと。それから、お一人から10単位分の血小板を採血させていただく場合にも、もちろん循環血液量の限度内で、血漿を採血させていただくというようなスタイルになっております。したがって、先ほどの張替先生のご質問にありましたように、献血者数は減少しているけれども採血量が増えるというような形になっております。以上でございます。

張替会長

はい。情報提供とそれから補足説明ありがとうございました。

ちなみに、E型肝炎の頻度っていうのはBとかCに比べてかなり低いのでしょうか。

峯岸委員

特定例で申し上げますと、Bに関しては、平成26年以降は、3年に1例ぐらいですね。それから、C型肝炎もそれ以下の頻度になっています。それから、HIVについても、もうここ15年で2例ぐらいだったかと思いますが、非常に少なくなりました。一方、E型につきましては、医療機関からのご報告とかがありまして、特定例として2019年度は5例だったと思いますが、輸血により発生しております。ですから、今後、核酸増幅検査が導入されて、輸血による感染は減るのではないかと思います。

ただ、キャリアっていいますか、もともとE型肝炎ウイルスってイノシシとかシカとか、そういった動物が保有しているので、ジビエ料理を生で摂取したりすると感染すると言われております。食品衛生法がだいぶ前に改正されたのですが、その当時までは、(E型肝炎は)北海道で比較的多かったのですが、昨年8月から核酸増幅検査が始まって、献血された血液の検査の中では関東甲信越が(検出結果が)一番多かったですね。0.096%とかそれぐらい。東北はといえますと0.067%。北海道もそれぐらいですね。関東が一番多いと。東が多くて西はそれよりちょっと低い頻度になっているようです。以上です。

張替会長

献血前のチェックっていうのは、例えば、BとかCとかに関しては抗体とかを調べると思うのですけれども、Eは(そのような献血前の)検査方法があるのですか。やっぱり抗体があるかどうかという。

峯岸委員

確かにIgA抗体試薬があると思いますが、血液センターの場合は核酸増幅検査を行っております。

張替会長

はい。ありがとうございました。追加でいかがでしょうか。
もし特にないようでしたら、事務局にマイクをお返しします。

5. 閉会

薬務課加藤副参事が協議会の閉会を告げた。

審議内容を明確にするため、議事録署名人が記名押印した。

署名人

署名人
